

2026 年 5 月 14 日

ダイナミックマッププラットフォーム株式会社

ダイナミックマッププラットフォーム、2026 年 3 月期決算を発表 修正予想比、上振れで落ち着し利益改善を実現 フィジカル AI 市場を背景に 2027 年 3 月期は調整後 EBITDA 黒字化へ

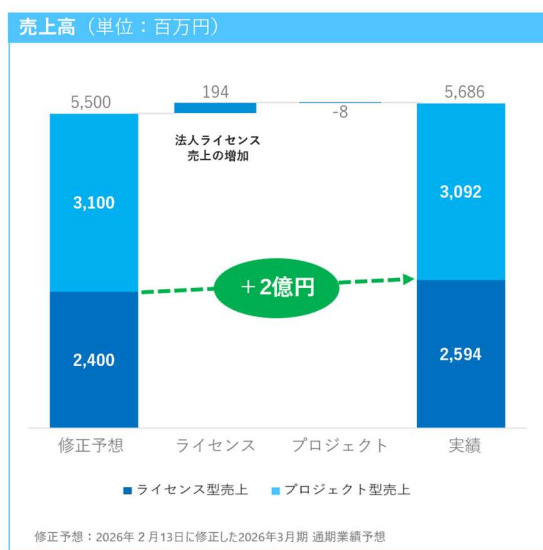
ダイナミックマッププラットフォーム株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO:吉村 修一、以下「当社」)は、2026 年 3 月期決算とともに、フィジカル AI 市場の環境と併せて 2027 年 3 月期業績予想に関する資料を公開しました。

2026 年 3 月期は「Data for AI」として AI 用途の法人ライセンスを中心にライセンスビジネスが拡大し想定を上回って落ち着しました。結果として第 4 四半期に利益が大きく改善するなど、通期で収益性向上に向けた確かな進捗を示すことができました。

また、2027 年 3 月期も引き続きフィジカル AI 市場の成長を背景に確実な成長を見込んでおります。

■ 2026 年 3 月期 売上面：修正予想比でライセンス型売上が想定を上回って着地

2026 年 3 月期は「Data for AI」を中心としたライセンス型売上が修正予想を上回り+約 2 億円の 26 億円で着地しました。これに伴い連結売上高も修正予想の 55 億円を 2 億円上回る約 57 億円となりました。

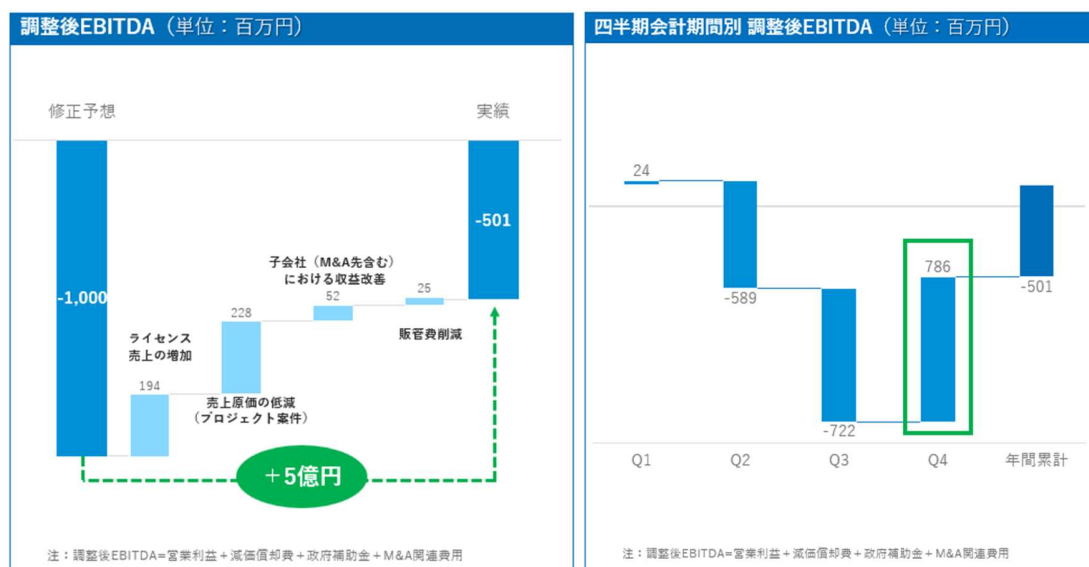


(2026 年 3 月期 決算説明資料より)

■ 2026 年 3 月期 利益面：調整後 EBITDA は修正予想比で 5 億円改善。第 4 四半期は黒字達成

調整後 EBITDA は、上記ライセンス型売上の増加に加えて、プロジェクト型ビジネスにおける売上原価低減、子会社（M&A 先含む）の収益改善、販管費削減により修正予想比で約 5 億円改善し、通期は▲5 億円となりました。

また、第 4 四半期には約 8 億円の調整後 EBITDA 黒字を計上し、四半期ベースでの収益構造は大きく改善しました。



(2026 年 3 月期 決算説明資料より)

■ 市場環境： フィジカル AI 市場が追い風

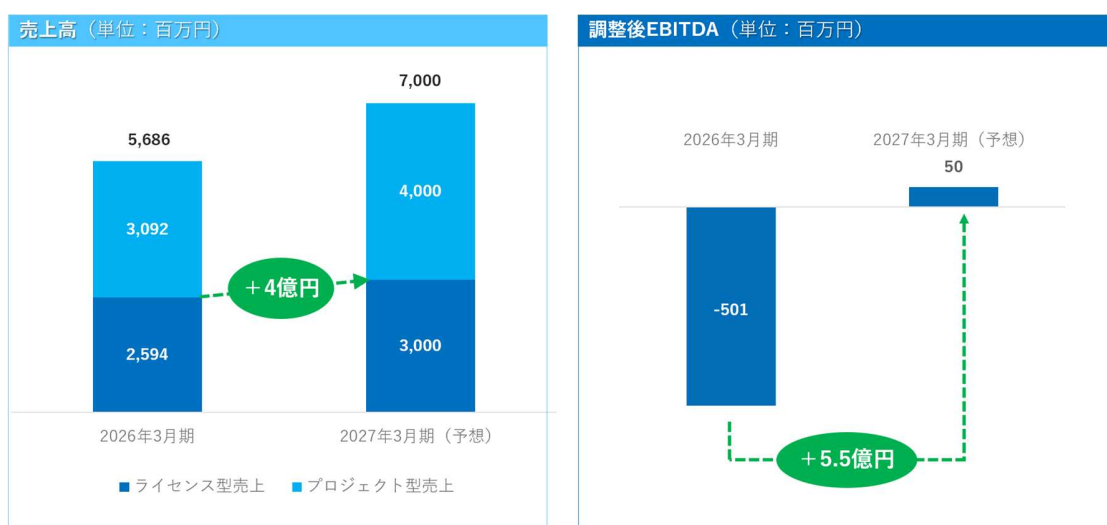
従来の自動運転・ADAS 向けの車載用途（量産ライセンス）に加え、AI 学習・検証・認証・推論・判断・シミュレーション向けなど法人ライセンスが拡大しております。足元で海外大手半導体メーカー、大手自動車メーカー等との取引が増加しておりますが、背景には自動運転・ロボティクス・スマートインフラを含む年率約 30% で拡大するフィジカル AI 市場による構造的追い風があります。

創業以来、実世界の高精度 3 次元データを蓄積してきた当社は、フィジカル AI 時代における基盤データの提供者として独自のポジションを確立しつつあります。

■ 2027 年 3 月期業績予想： 売上高 70 億円、ライセンス型売上 30 億円、調整後 EBITDA 黒字化へ

こうした市場環境のもと、2027 年 3 月期はこれまで進めてきた大規模データ整備が一巡し、投資回収フェーズへ移行します。

AI 用途での法人ライセンス需要の拡大を背景に、高収益なライセンス型ビジネスを 4 億円増加させる見通しで、調整後 EBITDA はコスト構造の改善も伴い 5.5 億円の増加を見込みます。結果として、売上高 70 億円、ライセンス型売上 30 億円、調整後 EBITDA 黒字化を見込んでおり、今後も利益成長を伴う持続的な事業拡大を目指します。



(2026 年 3 月期 決算説明資料より)

<ダイナミックマッププラットフォーム株式会社について>

当社は日本政府によるバックアップのもと、国内自動車メーカー10 社等の出資により設立されました。

日本をヘッドクォーターに、北米・欧州・中東・韓国に拠点を構え、現在 26 ヶ国で事業を展開。自動運転や先進運転支援システム(ADAS)をはじめ、シミュレータ環境構築、インフラ管理、除雪支援など、幅広い用途に向けて高精度 3 次元データを提供しています。

「Modeling the Earth」＝地球のデジタル化をビジョンに、高精度 3 次元データのプラットフォームとして、様々な産業分野におけるイノベーションを共創します。

設立: 2016 年 6 月

本社: 東京都渋谷区

代表者: 吉村 修一

事業内容: 自動運転・ADAS をはじめ多様な産業を対象とした高精度 3 次元データの提供

URL: <https://www.dynamic-maps.co.jp/>

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。このような将来予想に関する記述には、既知及び未知のリスクや不確実性が含まれており、その結果、将来の実際の結果や業績は、将来予想に関する記述によって明示的又は黙示的に示された将来の結果や業績の予測とは大きく異なる可能性があります。

これらリスクや不確実性には、国内および国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

また、本資料は、2026年3月期決算短信および決算説明資料を補足・要約したものであり、新たな開示事項は含まれておりません。